聖書研究ver.干干

「神さまはなぜ試練を課すのか」

2012/12/11

文責：干干

●関心

入寮前：詳しい知識をもっているわけではないが、ジェンダー・セクシュアリティ論に強く興味を持っていたので、日本に現代の正しい男性・女性像を持ちこんだものとしてキリスト教には強い忌避感を持つと共に勉強に役立つのではと知識を学ぶことには前向きな気持ち。

1,2年生：入寮前と大きく変わりは無いが、聖書研究の「研究」という語感から入寮前に受けていた学術的な印象と異なり、実際は聖書をどう読むのか・それをどう自身の生活での考え方に取り入れられるのかという点に重点を置いた講読に感じられ、あまり聖書研究には前向きな気持ちではない。

3年生：聖書（特に福音書）の内容がすんなりとれるようになるとともに、一応の理解が進んだことで実際に信じるか否かは別にして「信じられればいいな」と思うようになったことで、内容に踏み込んで皆の意見を聞くことが楽しみになる。しかし東北大震災など現代の人びとに生じるさまざまな問題や、聖書の一部の記述を見るにつけて神さまの存在を信じることはできなかった。

4年生：３年次と大きく変わらない。

●問い

Ｑ．なぜ神は罪もない人間に乗り越えられない試練を課すのか。（Ex.東北大震災での被災、五体満足で生まれてこられない人びとetc）

～考えられる答え～

・人間は誰もが原罪を負っている

→生まれて間もない幼児であっても先天的に障害を持って生まれてきたり、地震・津波で命を落としたりした。そういった人たちも罪深い？何のために生まれてきたのか？その子たちは神さまに愛されてはいなかったのか？

・キリスト教に接する機会がありながらその教えに触れようとしない点でも罪深い

→クリスチャンであるか否かは関係なく問題に巻き込まれる

・悪いことが生じた場合ばかり「なぜ神様は・・」と神様を意識し出す

・神様にもどうにもならないことがある？

→神さまはこの世のすべてのことに関与できる力を持っているのでは？

・そもそも神さまは人間一人ひとりの世話をやききれるほど暇じゃない

→神さまは全ての人間を我が子のように思っているのではなかったのか

・どんな苦しい状況の中でも神さまによって希望が与えられるはず！神さまは必ず乗り越えられる試練を与えてくれるはず！

→時間を経たり、努力でもどうにもならなかったりする苦境は必ずあるはず。現実は苦しい状況と妥協したり、「乗り越えた」という言葉を使いつつも実際は諦めているに過ぎなかったりすることも多い

・神さまの意図は人間には計り知れない

→結局誰にもわからないということ？そんな考えでなぜ与えられる試練を甘受できるのか？